



坂戸市長 石川 清氏

市長のメッセージ

坂戸市は、関東有数の清流高麗川が流れ、豊かな自然環境に恵まれているとともに、関越道・坂戸西スマートICと圏央道・坂戸ICがあるなど、交通利便性が非常に高いまちです。

令和7年1月に、坂戸IC地区に関する都市計画を決定しました。今後、工業・流通系施設の立地に向けて、民間事業者による工事が進められ、地域の経済的基盤が強化されるなど、本市のさらなる発展が期待されます。

今後も各分野における施策を着実に進め、坂戸市に愛着や誇りを持ち、住んでみたい、住みつづけたいと感じ、自分もこのまちで子育てをしたいと思っていただけるまちづくりに、積極的に取り組んでまいります。

はじめに

坂戸市は関東平野の西部、埼玉県のはぼ中央に位置している。市内の地形はおおむね平坦で、関東有数の清流として知られる高麗川が、南西から北東へと流れている。高麗川は市の北側で越辺川おっぺがわに合流し、市の北部を囲うように東へと流れていく。河川に囲まれた市内北部の土地は肥沃であり、その自然豊かな土地を活かして、昔から農業が盛んだ。

交通利便性が高く、鉄道で都心に直結していることから、ベッドタウンとしても発展してきた。また、鉄道沿線には、女子栄養大学、城西大学や明海大学、東京国際大学等のキャンパス、グラウンドが複数あり、多くの若々しい学生たちの姿が駅構内を行き交う。高速道路も充実しており、インターチェンジの近くには、物流施設や工場も多く立地している。

豊かな自然環境と、良好な生活環境が織りなす坂戸市の魅力が、世代を超え、多くの市民を集めてきた。



市内で採れた、葉酸を豊富に含む「みどり色野菜」

20年続く市民の健康づくりプロジェクト

市は、市民の健康寿命を延ばすことを目的に、市内の大学や企業、関係団体等と連携して、食生活や運動、歯の健康づくりなどを通じた健康増進事業に、積極的に取り組んできた。中でも「さかど葉酸プロジェクト」は、来年で開始20年の節目を迎える。

このプロジェクトは、女子栄養大学の研究成果からビタミンの一種「葉酸」に着目し、大学と協力して始めたものだ。市内で採れるほうれん草やブロッコリー等の「みどり色野菜」に葉酸は豊富に含まれる。

毎年開催する「食と健康のプランニングセミナー」には、これまで2,000人以上の市民が参加した。約半年にわたるセミナーでは、専門家による講義をはじめ、血液検査、遺伝子検査、食事調査、体質や葉酸摂取量に合わせた個人毎のアドバイスを行う。食事・運動教室への参加を通じ、血中の葉酸値の上昇や動脈硬化の危険因子の低下、食生活の改善により認知症や生活習慣病の予防を目指す。この取り組みは、各種メディアや県内外の自治体などから度々注目されてきた。県の健康長寿埼玉プロジェクトのモデル事業に選定されたほか、健康づくり事業の先進的な取り組みとして、「健康長寿優秀市町村表彰」で優秀賞を受賞した。

市は、プロジェクトの節目に向けて、地元野菜を活用した食育や健康志向のレトルトカレー「さかど葉酸カレー」の商品開発をスタートした。開発には、市の職員をはじめ、女子栄養大学のほか、市内複数の企業、関係団体が総動員で参画する。開発したカレーは、市

坂戸市概要

人口(2025年8月1日現在)	99,601人
世帯数(同上)	49,303世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	49.0歳
面積	41.02km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	111所
製造品出荷額等(同上)	1,918.1億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	460店
商品販売額(同上)	1,077.8億円
公共下水道普及率	73.6%
舗装率	73.3%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅
東武越生線 坂戸駅、西大家駅
- 関越自動車道 鶴ヶ島ICから市役所まで約1km、
坂戸西スマートICから市役所まで約2km
- 圏央道 坂戸ICから市役所まで約6km

内の協力店舗で販売されるほか、ふるさと納税の返礼品としての活用が予定され、シティプロモーション、歳入増にも繋げる方針だ。この坂戸市オリジナルの健康応援食品は、来年5月開催予定の市制施行50周年記念イベントで完成披露を行う。

✧ 豊かな自然に向けた環境保全プロジェクト

自然環境の保全に向けた取り組みにも積極的だ。市は2013年度からミツバチの飼育を始めている。現市長の発案で始まった「ミツバチプロジェクト」である。自治体が養蜂を行うのは、全国初の取り組みだ。当時の市の環境部長が個人で養蜂をしていたことがきっかけとなったようだ。「ミツバチと共生できる環境づくり」をメインテーマとして、自然を豊かにしてくれるミツバチの輪を広め、自然環境と共生する意識を市民と共に育み、健全で恵み豊かな自然が未来へ引き継がれるよう環境保全へと繋げる。ミツバチの蜜源地の確保として、遊休地の活用にも取り組む。

ミツバチの飼育は、一般市民から公募した「ミツバチボランティア」と市が協働で行う。ボランティアの任期は3年間で、毎年1回2月頃に募集する。本年度で13期生となったボランティアは現在15名が参加しており、養蜂技術の継承と養蜂家の育成を通じて、市の養蜂事業の拡大を支えている。養蜂家の育成により、農地の有効活用とハチミツを利用した地元産業の振興につなげ、商工活性化を図る。ハチミツが坂戸市の特産物となることが期待されている。

✧ 子育てに活かされる地産地消の「食育」

市は子育てを重視し、子どもたちに向けた様々な取り組みの中で、「食育」は特に重要だとしている。

市では市内の小学校12校、中学校7校の全校で学校給食の提供に自校調理方式を採用している。給食センターによる提供が主流となるなか、市内全ての小中学校内で給食を調理しており、地元の安心・安全な食材を活用しながら、毎日出来たての給食を提供する。

また、小中学校の給食費無償化も2023年に実現した。保護者の経済的負担を軽減し、児童生徒の健やかな成長を支える。坂戸市には「食育」を介した手厚い子育ての環境がある。

市内を飛び回るミツバチは、環境の変化にとっても敏感な生き物である。花の色、形、匂い、開花時刻、花の咲いている場所なども覚え、優れた記憶・学習能力を持つ。そして自分が育った巣を忘れない。必ずその場所に帰ってくる。親しんだ故郷と、頼れる家



ミツバチプロジェクトで採れたハチミツ

族がそこで帰りを待っているからだ。坂戸市も坂戸で育った子どもが、将来帰りたくなるまちを目指している。

(齋藤康生)